

(7) 健診(検診)

重点分野別 目標	特定健康診査、各種がん検診を受診し ましょう。	総合評価
		A

総合評価の内容および今後の推進方策

1 特定健康診査（国保）（平成20年度から実施）

特定健康診査の受診率は、平成20年度から増加傾向にありましたが、平成28年度は微減しています。また、特定保健指導の実施率は、平成22年度以降、増減を繰り返しています。目標値は平成29年度でいずれも60%でしたが目標達成には至っていません。

メタボリックシンドロームの該当者・予備群の割合を見ると、国では平成20年度から25%の減少を目標としていましたが、本市では、平成20年度26.4%、平成28年度24.0%でありほぼ横ばいです。今後、国ではメタボリックシンドローム該当者等の減少ではなく、特定保健指導対象者割合の減少を指標とすることになります。

生活習慣病は自覚症状がないまま進行し、重症化すると、QOLの低下を招くとともに医療費など経済的負担が大きくなります。生活習慣病の発症や重症化を予防するために、特定健康診査の受診率、特定保健指導の実施率がさらに向上するよう取り組みます。

2 がん検診受診率

本市における各がん検診の受診率は、いずれの検診も向上しており、特に、胃がん、大腸がん、肺がん検診は目標を達成し、子宮がん、乳がん検診においても、目標には届かないものの向上していることから、概ね効果的な事業展開がはかられています。

科学的根拠に基づいたがん検診の受診は、がんの早期発見・早期治療につながり、がんによる死亡者を減少することができるため、受診率の向上は必要不可欠であり、今後も、受診率の改善傾向が持続するよう、引き続きがん検診の必要性などについての周知・啓発や受診しやすい環境づくりの整備、従来の活動に加え健康意識を高める活動などにつとめます。

個別目標

【行動目標】

- 1 健診(検診)を受けましょう。……………61
- 2 健診(検診)の必要性と方法を学びましょう。……………62
- 3 特定保健指導を受けましょう。(国保加入者の40～74歳)……………63

(7)健診(検診)

行動目標 1

目標

健診(検診)を受けましょう。

ライフステージ：青年期、壮年期、中年期、高齢期

指標の推移と中間評価

項目	基準値	中間値	目標値	中間評価
国民健康保険の特定健康診査受診率	24.9%	35.2%	60%	△

基準値：平成22年度秋田市特定健康診査実施状況

中間値：平成27年度秋田市特定健康診査実施状況

受診率は平成22～27年度は増加していましたが、平成28年度は平成26～27年度と同程度の数値であり、国の定める平成29年度末の目標受診率である60%には達していません。

項目	基準値	中間値	目標値	中間評価	
胃がん検診受診率	40～69歳	19.0%	49.8%	40%	◎
大腸がん検診受診率	40～69歳	19.2%	51.6%	40%	◎
肺がん検診受診率	40～69歳	7.3%	59.5%	40%	◎
子宮がん検診受診率	20～69歳	28.4%	43.0%	50%	○
乳がん検診受診率	40～69歳	20.3%	48.9%	50%	○

基準値：平成21年度市民健康意識調査

中間値：平成28年度市民健康意識調査

各がん検診の受診率は、順調に向上しています。

課題と今後の方向

特定健康診査については、未受診者や新規対象者(40歳)への受診勧奨のほか、広報あきたや市政テレビ・ラジオ、タウン情報誌やバス広告の活用などにより周知・啓発をはかりましたが、受診率の向上には至っていません。

特定健康診査未受診で医療機関に通院していないかたは、自分の健康状態を把握しておらず、重症な生活習慣病が潜んでいることも考えられます。

健診を受け自分の健康状態を把握している人を増加させる必要があることから、対象者に応じた周知の工夫や電子申請の拡充、医療機関からの診療情報の提供等により、受診率の向上をめざします。

がん検診については、健診ガイドの全戸配布、市ホームページ、広報あきたなどを通じた周知や、胃がん、肺がん、大腸がん検診を一度に受けることのできるミニセット健診、日曜健診、女性限定のレディース健診の実施など受診しやすい環境づくりの取組により、受診率の向上がはかられていますが、女性特有のがん検診については、他のがん検診に比べ受診率が低く、特に20代から30代にかけて増加する子宮頸がんは、その年代の受診率が低い状況にあります。

部位別がん死亡率をみると、大腸がん、肺がんおよび乳がんについては、年々増加傾向に、胃がんについては、横ばい傾向にあるものの依然として死亡者数が多い状況にあることから、これまで行った受診率向上の施策の効果を検証し、実施方法や手続の簡便化など受診しやすい体制の充実と、年代や性別にあった情報提供を行うなどのより効果的な受診勧奨により、受診率向上につとめます。

個別目標達成のため推進する主な取組

- 特定健康診査・特定保健指導事業
- 人間ドック保健事業
- 後期高齢者健康診査事業
- がん検診・がん予防啓発事業
- 健診(検診)受診率向上検討連携会議

- 健診ガイドの全戸配布
- 割引制度【H28～】
- ミニセット健診、日曜健診、レディース健診の実施【H28～】

◎ 計画策定後に開始した取組は、開始年度を【 】内に表示

目標

**健診(検診)の必要性と方法を学びましょ
う。**

ライフステージ：少年期、青年期、壮年期、中年期、高齢期

指標の推移と中間評価

項目	基準値	中間値	目標値	中間評価
健康なので健診は必要ないと考えている人の割合	19.0%	19.5%	15.2%以下	↔
健診の実施を知らなかった人の割合	11.3%	9.8%	9.0%以下	○

平成21年度市民健康意識調査

平成28年度市民健康意識調査

「健診の実施を知らなかった人の割合」は減少し、目標値に近づいていますが、「健康なので健診は必要ないと考えている人の割合」は減少がみられず、ほぼ横ばいの状況です。

課題と今後の方向

特定健康診査未受診で医療機関に通院していないかたに対して、対象者を限定し受診勧奨を行います。また、秋田市医師会と連携し、受診勧奨をはかるほか、かかりつけ医での検査データを特定健康診査として活用していきます。

がんに対する正しい知識の普及とがん検診の必要性などについては、健診ガイドの全戸配布や割引制度対象者への個別の勧奨、再勧奨通知、健康教育などの機会におけるがん予防等リーフレットの活用、地域保健推進員によるPR活動などにより周知してきました。

がん検診においては、自覚症状などのない健康な状態のときに受診することが重要であり、がん検診に対する関心をさらに高め、一人ひとりが自分にあった検診計画を立てることができるようにするため、がんにかかりやすい年代の手前の年代から定期的に受診することの重要性やがんに対する正しい知識と受診方法について、健診ガイドの充実や割引制度による継続した受診勧奨通知などの方法により、幅広く周知につとめます。

個別目標達成のため推進する主な取組

- がん検診・がん予防啓発事業
- 中高生対象セミナー(※)
- 健診ガイドの全戸配布
- 割引制度

※「中高生対象セミナー」は、平成28年度で終了

(7)健診（検診）

行動目標3

目標

特定保健指導を受けましょう。

ライフステージ：壮年期、中年期、高齢期

指標の推移と中間評価

項目	基準値	中間値	目標値	中間評価
国民健康保険の特定保健指導実施率	39.7%	40.6%	60%	△

基準値：平成22年度秋田市特定健康診査実施状況

中間値：平成27年度秋田市特定健康診査実施状況

国民健康保険の特定保健指導の実施率は、平成22年度以降増加と減少を繰り返し、平成27年度は基準値を下回っており、目標の60%には達していません。

課題と今後の方向

特定保健指導対象者への電話による利用勧奨のほか、広報あきたや市政ラジオの活用、医療機関への利用勧奨リーフレットの設置等により周知につとめましたが、実施率の向上には至っていません。

特定保健指導は、指導対象者が生活習慣における課題を認識し、行動変容と自己管理によって健康的な生活を維持できるよう、生活習慣病を予防するために行うものです。

今後もこれまでの取組を継続するとともに、指導体制の整備や利用勧奨方法の工夫など、新たな取組により実施率の向上をめざします。

また、特定保健指導対象者以外でも、糖尿病や高血圧症の疑いのあるかたに対する受診勧奨や保健指導に取り組みます。

個別目標達成のため推進する主な取組

■特定健康診査・特定保健指導事業